

2013年教会標語 イエスさまの肢体になろう

牧師 島田勝彦

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」
マルコによる福音書1:15

『イエスさまの肢体(からだ)になろう』。この大きなテーマを示されて10年経とうとしています。

「教会」が生きたキリストの躰となるためです。

わたしたちひとり一人が生きたキリストの手足となるためです。

そして多くいてもひとつキリストの躰であり続けることを願うからです。

そして今年2013年は、マルコによる福音書第1章15節のみことばを標語聖句として、「悔い改めの生活」という副題を導かれています。

天地創造の神は、イスラエルという器を選び、そこに耐えざる恵みを注いでくださいました。でもこの器はその全てを受けとめきれなかったのです。

最後の一滴こそイエス・キリストです。この方によって注がれた恵みが器の外にあふれ出たのです。

主の恵みはすべての者に行き渡りました。選ばれた器にとどまらず、恵みの神のご支配がキリストによって届けられ、わたしたちに迫って来たのです。

イエス・キリストは「神の時」の徴です。

イエス・キリストの存在こそ、「神の国の到来」、神のご支配が、もう目の前に始まっているのです。

今がその時です。

わたしたちは既に、神のみ前に隠れることのできない「時」、「神のご支配にひれ伏す時」を迎えている、ということです。

迫り来る「神の時」を、今年はしっかりと意識して過ごしましょう。

譬えるならば、こういうことです。

神が用意された最終列車がもうホームに入ってきました。手を伸ばせば触れることができるほどに、今まさに目の前に到着しました。

乗り込む準備を整え、急いでこれに乗ってください、と。

でもわたしたちの周囲には、乗る気のない者もいます。当然ホームに向かうこともしません。移動することがおっくうであり、今ここにいること以上に、先を見ることのできない

人たちです。

なかには、せっかくホームまで来たものの、なかなか乗りたい列車が来ないからといって、諦めてしまったり、待ちきれず行き先の違う列車に乗り込んでしまう者もいます。しかし、イエスさまは、ホームにいても、うっかり居眠りしたり、ほかのことに気を取られて、乗り損なうことがないように、注意を促してくださっているのです。あしたの話ではありません。いずれ、こちらの都合や気分次第で予定を立てるようなものでもありません。

今、ここで、もう時は迫り、二度とチャンスはない最後のアナウンスです。あの三陸の津波の時、最後まで、自分のいのちを犠牲にしてまで住民に避難を叫び続けた女性の声にもたとえられます。

この警告にわたしたちが応える術はただ一つ、「悔い改める」ことです。

悔改めは、単なる反省や、自虐的な悔いではなく、全人格にかかわる根本的な転換です。

主イエス・キリストの十字架のみ前に自らの罪深さを知り、この救いの道を開かれた神の愛と恵みを深く覚え、罪を離れて神に立ち返ることです。

ですから、真実な悔改めがあってこそ、真実な信仰に導かれます。悔改めを伴わない信仰があるとすれば、真の救いに導く信仰にはなりません。

救いに至らせる信仰は、おのずと悔改めの生活へとわたしたちを導くのです。神との関係の回復こそ「信仰」だからです。

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」

「悔い改め」は、キリストとの絶えざる交わりの生活です。イエスさまへの明け渡しです。

今、わたしたちにできること、残されている道は、この方に向かうことです。これまでの生き方の中心、関心事、歩んできた道をかなぐり捨てて、イエス・キリスト「福音」に向かうことです。

「神は愛です」。神の全ての教えも定めも、その業も「福音」です。全ての縄目を解き放ち、新しい希望といのちに満ちた創造のみ業にあふれています。この福音から全てを見通してまいりましょう。